

近代中国女性のモビリティ経験と女性「解放」に関する再思考

秦 方（首都師範大学歴史学院）

【発表要旨】

近代中国女性のモビリティ（移動）経験は、1840年以降の中国社会で起きた変化を物語っている。例えば、物質生活の面においては、新しい交通道具の現れがその一つである。同時に、女性のモビリティは、その思想が閉鎖から解放へと移行することを反映している。もとより称賛されていた「深居閨閣」（閨に居る）という女性の生き方と、それを支える道徳観は、逆に女性の不開化の根源とされて批判されるようになった。それに代わって、閉鎖状態から解放する新しい女性像が称賛されるようになる。そのために、女性のモビリティは当時の人々によって楽観視され美化されており、女性解放の象徴となる。しかし、そのようなモビリティへの推賞は、歴史記述の面においては、当時の人々ないし学者が進歩と解放などといった現代の特質を鵜呑みにする態度を反映している。女性の「解放」というまでもなく、女性の暮らし方に大きな変化をもたらしたが、それ自体は自明の概念ではない。その背景には、殖民主義によって支えられた言論覇権の歴史的枠組があった。「解放」と「圧迫」の内容は、そのような言論覇権によって決められたものである。もしそれを十分に批判せず、その現代性と正当性を鵜呑みにし、さらにそれを中国社会と女性の改革とに用いると、思想と社会との間にズレが生じて、女性が犠牲者となると考えられる。そのために、女性「解放」という課題の歴史性を正しく認識する必要がある。さらに、「解放」された後、女性がより複雑な問題を前にするようになる。如何にそれらに対処すべきかを考えるべきである。そのような思考を通して、女性は政治的・道徳的・経済的な負担をせずに自由に「解放」と「圧迫」を選ぶことができるようになると思われる。

【略歴】

秦 方/Qin Fang（首都師範大学歴史学院准教授）

学歴：2005～2011、ミネソタ大学、博士学位

2002～2005、南開大学歴史学院、修士学位

1998～2002、南開大学歴史学院、学士学位

主要論文：

「覚えられることと忘れられること：近代における〈七出〉〈三不去〉の言論の変遷」、『婦女研究論叢』、2018年12月第6号。（該当文章は、『人大複写新聞資料・婦女研究』2019年第2号に転載される。）

「呂碧城の作り上げ：清末女性の公衆イメージの形成と伝播」、『南開学報』（哲学社会科学版）、2018年3月第2号。（該当文章は、『歴史と社会（文摘）』2018年6月第2号、『人大複写新聞資料・婦女研究』2018年8月第4号、『新華文摘』（インターネット版）2018年第14号などに転載される。）

「幽閉から家出へ：清末民初の女性の窮境—解放に関する言論の形成と実践」、『婦女研究論叢』、2017年7月第4号。（該当文章は、『人大複写新聞資料・婦女研究』2017年10月第5号、『新華文摘』（インターネット版）2018年第5号、南開婦女・性別史学術フォーラム（インターネット版）に転載される。）

Co-authored with Emily Bruce, “Our Girls Have Grown Up in the Family”: Educating German and Chinese Girls in the Nineteenth Century, *Journal of Modern Chinese History*, vol. 1, 2016; Later the revised version was collected in *A History of the Girl: Formation, Education, and Identity*, edited by Mary O’Dowd and June Purvis, Palgrave Macmillan, 2018, pp. 103-122.

「近代反纏足の輿論のもとでの視角の差異：19世紀末における天津天足会を中心に」、『婦女研究論叢』、2016年5月第3号。（該当文章は、『歴史記述における女性の言葉の建築：中国婦女/性別史研究抜粋』（中国書籍出版社、2017年）に転載される。）